

は し が き

本報告書は、ODA 評価有識者会議が外務省国際協力局より依頼を受けて実施した「地球的規模問題への取組（環境・森林保全）」の評価結果を取りまとめたものである。

我が国は ODA 大綱の中で「地球的規模の問題への取組」を重点課題とするとともに、「環境と開発の両立」を援助実施の原則として掲げ、地球規模で様々な環境問題へ取り組んでいる。地球環境問題への取組は、地球温暖化対策、環境汚染対策、自然環境保全など非常に多様であり、具体的な事業も広範である。本評価では特に自然環境保全の中でも、森林保全に着目し評価を行った。森林保全は、地球温暖化や砂漠化などの地球環境問題への対策として重要であるばかりでなく、多くの貧困層の住む農村地域では、生活改善や貧困削減に資するものとして位置づけられている。

本評価調査では、森林保全に関する取組を、地球環境問題や貧困などへの効果も含めて、包括的な評価を試みた。また、その結果から、今後のより効果的・効率的な協力を資する教訓と提言を導き出した。なお、本評価調査では、被援助国との政策協議やスキーム間の調整、日本の知見の活用など、援助実施のプロセスに重点を置き評価を行った。関連情報を収集するため、対象事業を管轄する在外公館、JICA への質問票調査を実施するとともに、ケース・スタディ国であるインドと中国では、現地での詳細な調査を行った。

なお、ODA 評価有識者会議は、評価の客観性を高めるために発足した外務省国際協力局長の私的懇談会であり、外務省国際協力局より ODA 評価の実施を依頼され、評価実施方法を策定して評価を実施し、その結果を報告書にとりまとめ、外務省国際協力局に対して参考意見としてフィードバックする役割を担っている。本評価調査の主任は、ODA 評価有識者会議の望月克哉アジア経済研究所専任調査役が担当した。

本評価調査では、筑波大学生命環境科学研究科の増田美砂助教授と、地球環境戦略研究機関の関良基客員研究員に御参加頂き、多大な協力を賜った。また、外務省、国際協力機構、国際協力銀行及び ODA タスクフォースを含む現地の援助関係者にもご協力を頂いた。ここに心より謝意を表したい。なお、本評価では、外務省国際協力局評価室が全体調整を行い、外務省が業務委嘱したアイ・シー・ネット株式会社が一連の情報収集・分析等支援業務を行った。

最後に、本報告書に記載された見解は、日本政府及びその他関係機関の立場を反映するものではないことを付記する。

2007 年 3 月

ODA 評価有識者会議

牟田博光（座長） 東京工業大学大学院社会理工学研究科長
池上清子 国連人口基金（UNFPA）東京事務所長
今里義和 東京新聞論説委員
大野泉 政策研究大学院大学教授
田中弥生 独立行政法人 大学評価・学位授与機構助教授
野田真里 名古屋 NGO センター理事・中部大学助教授
橋本ヒロ子 十文字学園女子大学教授
望月克哉 アジア経済研究所新領域研究センター専任調査役
山形辰史 アジア経済研究所開発スクール（IDEAS）教授